

令和2年度 看護学部1学年シラバス（後期）

<後期>

人間関係論	…P1～10
生命倫理	…P11～17
統計学	…P18～26
自然科学（物理）	…P27～35
自然科学（化学）	…P36～41
美術	…P42～48
体育 I	…P49～55
社会と医療・福祉・保健	…P56～62
人体解剖生理学Ⅱ	…P63～69
看護学の基本Ⅱ	…P70～77
災害看護学 I	…P78～84
基礎看護学実習 I	…P85～92

区分名：人間の理解を深める

科目名（英語名称含む）：人間関係論（Human Relations）

教員名：立柳聡

開講年次：1年次，学 期：2020年度 後期 ， 必修／選択：選択

授業形態：講義 ， 単位数：1単位 ， 時間数：15時間

概要：主として社会学、社会心理学、心理人類学の知見に拠りながら、人間関係について考察する基礎知識、並びに、日本人の人間関係の特色とそれを育んできた背景と考えられることについて探究します。

学習目標：

一般目標； 社会・文化的な条件とその下に置かれた人間の心理や行動を、相関的に考察できるようになる。

行動目標； 1) 人間関係について考える上で基本となる概念や理論を理解できるようになる。

2) 日本人の人間関係の特色を理解できるようになる。

3) 子どもの社会化や発達と人間関係の相関について、原理的に理解できるようになる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣	—	修得の機会が

	装・品位/ 礼儀		い、態度をとることができる。		ない。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない。
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と 自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		

3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		

1)	豊かな感性 と倫理観を もつ看護専 門職者	①	感性を高める科目	◎	看護の場に 知識を応用 できること が単位認定 の要件であ る。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊か な看護専門 職者	①	社会の理解を深める科目	◎	看護の場に 知識を応用 できること が単位認定 の要件であ る。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対 応する実践 能力を備え た看護専門 職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会 がない。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護 を実践することができる。					
1)	人々のニー ズに基づい た看護の実 践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活 を取り巻く環境の観点で捉えることがで きる。	—	修得の機会 がない。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・ 医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に ついて説明できる。		

		<p>③ 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。</p> <p>④ 健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。</p> <p>⑤ 安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。</p> <p>⑥ 看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。</p> <p>⑦ 看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。</p> <p>⑧ 地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。</p>		
6. 地域社会への貢献				
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>				
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	<p>① 地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。</p> <p>② 人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。</p>	◎	実践できることが単位認定の要件である。

2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：必要に応じ、順次、プリントを配布します。

参考書：講義を踏まえ、適時、紹介していきます。

成績評価方法：

- 1) 出席状況、フィードバックペーパーとレポートの内容、各種の減点によって、総合的に判定します。詳細は開講時に説明します。なお、受講者が比較的少数で、ゼミナール型の展開となる場合は、別途判定の基準を設けることとしますが、詳細は開講時に説明します。
- 2) 欠席された場合は、その日の講義の要点をまとめた自己学習報告書を所定の日までに提出していただきます。万一未提出となった場合は、減点とします。なお、内容に問題がある場合は、必要に応じ、個別の呼び出しをさせていただき、問題点の指導に当たります。

- 3) 科目担当者の判断として、レポートの再提出の機会はありません。皆さんの運命を決する国家試験に再試験はありません。前哨戦と位置づけて、真剣勝負に挑む心構えを培うトレーニングと思ってほしいと期待です。
- 4) 万一、不合格となった場合は、有志の方々のみを対象に、1月に特設講座を開設し、再履修していただきます。ゼミナールかチュートリアルで鍛えます。その上でレポートを提出していただき、2月に成果を評価し、可否判定を行います。なお、これをもってラストチャンスといたします。
- 5) その他、諸々の詳細は、開講時に説明します。

その他（メッセージ等）：

- 1) 人任せ＝主体性を欠いた発言・判断・行動、並びに、気楽、安易、暢気な態度には厳しく措置します。
- 2) 命に向き合うに相応しい人間のあり方に常にこだわり、講座の運営に当たります。私語、授業中の中抜けなどの迷惑行為に対しては、厳しく措置します。
- 3) 部活の都合は一切考慮しません。
- 4) 本講座は選択科目であるため、開講してみないと受講者数や顔ぶれがわかりません。それによって展開方法も変わってきます。上掲の授業内容は、講義中心の展開となった場合のことを想定してまとめていますので、順番の入れ替えや差し替え、対話型の方法の採用など、多少とも変更になる可能性があることを予めご理解ください。
- 5) できれば人間関係について考察する何らかの社会調査にも取り組んでみたいと思います。
- 6) 選択科目において折々に生じる嫌いがありますが、開講してからの履修放棄は、グループワークの展開に支障を与えるなど、他の履修者の皆さんに大きな迷惑をかけることにもなりますので、2年生以降の履修計画も念頭に置き、しっかりと検討の上、履修するか否かを決めると共に、決めた以上は意欲的に学習してください。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	人間関係論の事はじめ ーオリエンテーション	一定の社会・文化的条件とその下に置かれた人間の心理や行動との相関を考察していくに当たり、最も

	と基礎知識の整理—	基本的でたいせつとみられる概念を、話題に即していくつか整理してみたいと思います。 あなたはお母さんとお父さんとどちらが一段と好きですか？どうして違いが生じるのだろうか…
第2回	家族の中の人間関係 —亭主関白・友だち夫婦・かかあ天下の違いはなぜ起きる？その1—	日本人の社会の本質の一つは、家族本位制であると言われます。家族は日本人が何らかの集団を形成する場合のひな型であるとみられるわけですが、家族という集団の特色を考えてみます。すると、一見、宿命的な関係のようにみえる各家族員同士の人間関係も、丁寧にみると、つながりの強弱やいずれにイニシアチブがあるかなど、結構違いがあることがわかります。その背景を探してみたいと思います。
第3回	家族の中の人間関係 —亭主関白。友だち夫婦・かかあ天下の違いはなぜ起きる？その2—	第2回の続きを講じます。
第4回	家族の中の人間関係 —亭主関白。友だち夫婦・かかあ天下の違いはなぜ起きる？その3—	第3回の続きを講じます。
第5回	子どもの育て方の違い と育ち方の違い —子どもの社会化と文化の相関・その1—	子どもの育ちは親や社会のあり方や関わり方から大きな影響を受けると言われています。日本人の子どもたちはどんな時期にどのような人間関係を経験し、社会化するのでしょうか。それは他の民族にも当てはまることでしょうか。考えてみたいと思います。
第6回	子どもの育て方の違い	第4回の続きを講じます。

	と育ち方の違い —子どもの社会化と文化の相関・その2—	
第7回	子どもの発達を促す人間関係・その1	未来の担い手である子どもたちが健やかに育つ上でも、人間関係は重大な役割を担っています。どのような質を伴った子どもと大人との人間関係が、子どもの発達を促すのか。それを保障されることが子どもの権利の確信であるとも言われます。ということなのか、お話をしたいと思います。
第8回	子どもの発達を促す人間関係・その2	第6回の続きを講じます。
第9回	人間関係づくりの不思議 —偏見や差別はどのように生じるのだろうか？ その1—	人間関係は、仲睦まじく深められていくとは限りません。人間関係づくりがうまく進まなくなったり、逆に壊れていく場合もあります。そこにはどんなからくりが潜んでいるのでしょうか。考えてみたいと思います。
第10回	人間関係づくりの不思議 —偏見や差別はどのように生じるのだろうか？ その2—、並びに、オリエンテーション	第7回の続きを講じます。 人間関係の特色を捉える社会調査の概要をご紹介しますと共に、方法を指導します。
第11回	日本人の人間関係の特色・その1 —東日本と西日本に違いはあるか？前編—	しばしば東日本と西日本の文化の違いが話題になりますが、人間関係なり、その網の目である社会のあり方にもそうした違いを見出すことはできるのでしょうか。違いあがるとしたら、それを生み出しているものは何なのでしょう。あなたは、県民性はあると思いますか？
第12回	日本人の人間関係の特	第11回の続きを講じます。

	色・その1 —東日本と西日本に違いはあるか？後編—	
第13回	日本人の人間関係の特色・その2 —日本人の人間関係づくりに特色を与えているもの・前編—	学史を振り返ってみると、様々な日本人論が、今回の項目のことを扱ってきました。「恩」、「義理」、「人情」、「甘え」、「仲間意識」等等、有名なキーワードも多々生まれました。ことわざにも人間関係に関わるものが様々あります。例えば、そうしたものに注目すると、どんなことがみえてくるのでしょうか？考えてみよう。
第14回	日本人の人間関係の特色・その2 —日本人の人間関係づくりに特色を与えているもの・後編—	第13回の続きを講じます。
第15回	オリエンテーション	レポートの課題の発表し、データ分析の方法とグループワークの進め方を指導します。

区分名：倫理性を高める

科目名（英語名称含む）：生命倫理（ Bioethics ）

教員名：太田 操

開講年次：1年次，学 期：2020年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義 ， 単位数：1単位 ， 時間数：15時間

概要：生命倫理は、生命科学や医療分野において、道徳的価値や原理に照らして人間と人間・自然・環境・社会との関係を体系的に探求する学問である。医療現場の倫理的事例から「生」とは、「死」とは、「生命」とは何かという根源的な問いを探求する。

学習目標：1)生命倫理を学ぶ意義について説明できる。

2)医療現場で直面する倫理問題を説明できる。

3)自己を含めた各々の価値観の多様性を理解できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正す		

			ことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		

	ン	③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		

2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	修得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		

		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明でき		

			る。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	-	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しない。

参考書：開講時に提示する。

成績評価方法：授業への参加度と期末レポートにより評価する。

その他（メッセージ等）：各回のテーマは、1つの正解が出るものではない。柔軟な思考や発想と積極的な参加を期待する。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	生命倫理とは	生命倫理誕生の背景、学習の意義

第2回	生命倫理の課題(1)	生命倫理の視点からの医療の構造
第3回	生命倫理の課題(2)	
第4回	生命倫理の課題(3)	いのちの始まりに関する生命倫理、生殖技術・人工妊娠中絶等
第5回	生命倫理の課題(4)	
第6回	生命倫理の課題(5)	
第7回	生命倫理の課題(6)	治療の選択、死の定義等
第8回	生命倫理の課題(7)	
第9回	生命倫理の課題(8)	
第10回	倫理に関する基本理念(1)	倫理原則、正義について、自己決定に関する議論
第11回	倫理に関する基本理念(2)	
第12回	倫理に関する基本理念(3)	
第13回	生命倫理における看護の責任	看護における倫理的機能、倫理的場面における看護師の役割
第14回	ディベート	
第15回	まとめ	

区分名：論理的思考力を培う

科目名（英語名称含む）：統計学（Biostatistics）

教員名：後藤あや、(医) 中野裕紀、石井佳世子、(医) 村上道夫

開講年次：1年次，学期：2020年度 後期 ，必修／選択：必修

授業形態：講義，単位数：2単位 ，時間数：30時間

概要：

統計学の講義は、疫学（2年前期）および情報学演習（2年後期）とシリーズになっており、この3つの講義と演習を通して、エビデンスに基づく保健医療が提供できる知識と技術が身につくことを目指します。

エビデンスとは、日本語にすると「根拠」です。保健医療サービスは、その効果が科学的に明らかであるもの、つまりエビデンスが検証されたものを提供することが望まれます。ここでエビデンスとは、数値だけではなく、人々の声（文章）のデータも含まれます。

統計学の講義では、データを収集する調査デザインと、収集したデータを分析し提示、さらには結果を読み取るための基礎的な知識を学びます。基礎的な机上の勉強と捉えられがちですが、統計学は非常に実用的であり、保健医療の実務で必ず使う実践技術です。

学習目標：

一般目標

エビデンスに基づく保健医療が提供できるようになるために、データを収集、分析、提示、読み取るための基礎的な知識と技術を身につける。

具体的目標

1. 統計と疫学の役割を概説できる。
2. 調査の流れを説明できる。
3. 質的データと量的データの違いを説明できる。
4. データを収集する主な調査デザインについて概説できる。
5. 母集団と標本について説明できる。
6. データ管理のポイントを説明できる。
7. 主な代表値について説明できる。
8. 図表の特徴について説明できる。

9. パラメトリックとノンパラメトリックの違いを説明できる。
10. カイ二乗検定と t 検定を行い、結果を解釈できる。
11. 基本的な統計データを読み、グループで討議が出来る。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェSSIONAL					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	講義に組み込まれているグループ演習に班員で協力して取り組む態度を評価する。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	同上
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	●	データを扱う基礎的知識について教授する。
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	グループ演習を通じて修得

		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		の機会があるが、単位認定に関係ない。
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習(自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習)により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	グループ演習を通じて修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することがで		

			きる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	論理的思考能力としてデータを収集・分析・解釈する基礎的知識と技術を身に付けることが単位認定の要件である。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	修得の機会がない。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会が

応する実践 能力を備え た看護専門 職者	②	看護の実践		ない。
	③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践				
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。				
1) 人々のニ ーズに基づい た看護の実 践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	● 健康に関するデータを収集・分析・解釈する基礎的知識と技術を身に付けることが単位認定の要件である。	
	②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
	③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
	④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
	⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
	⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
	⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
	⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要		

			性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	健康に関するデータを収集・分析・解
		②	科学的思考に基づいて看護学		

		上の課題を解決することの重要性を説明できる。	積する基礎的知識と技術を身に付けることが単位認定の要件である。
--	--	------------------------	---------------------------------

テキスト：

横川博英（監）、藤林和俊（著）．看護研究をはじめのための統計と臨床疫学．学研メディカル秀潤社．

参考書：

中村好一．やさしい統計学入門．診断と治療社．

成績評価方法：

試験（70％）と出席・提出物（30％）により総合的に評価します。

その他（メッセージ等）：

シリーズとしている3つの講義・演習どれにおいても、グループ演習への積極的な参加を求めます。講義を聞くだけでなく、自分で考え、使うことで、知識と技術は定着します。

特別講師（予定）：鈴木孝太（愛知医科大学）

授業内容(学習項目)

※3時間分を1回とする。(計30時間)

回数	項目	内容（キーワード等）
1	統計の役割、データの面白さ、調査の流れ、データの種類 演習：図表の解釈	統計、疫学、質的データ、量的データ、カテゴリーデータ、順序データ、数量データ
2, 3	調査デザイン、サンプリング	地域相関研究、横断研究、症例対照研究、

	演習：デザインの選択	コホート研究、介入研究、質的研究、母集団、標本
4	データ管理、代表値、図表、 横断研究とクロス集計 演習：図表の解釈、スマホで分析	正規分布、平均値（標準偏差）、中央値（最小、最大）、最頻値、表、棒グラフ、線グラフ、ヒストグラム、箱ひげ図、検定、推定、クロス集計、p 値、95%信頼区間、カイ二乗検定
5	平均値の比較、相関と回帰 演習：スマホで分析、復習	帰無仮説、パラメトリック、ノンパラメトリック、t 検定、相関、回帰
6	疫学と統計のつながり 演習：スマホで分析	
7	事業評価の実践 演習：スマホで分析	
8	母子保健統計 演習：データについて討議	
9	医療情報学 演習：医療情報演習	個人情報、電子カルテの3原則、レセプト、ICD-10
10	総復習	

区分名：

科目名（英語名称含む）：自然科学（物理学）（Natural Science (Physics)）

教員名：吉田 宏

開講年次：1年次、学 期：2020年度 後期、必修／選択：必修

授業形態：講義、単位数：3単位、時間数：14時間

概要：

（物理学分野）数量的な感覚を養い、物理学における原理や法則、力学的な知恵が、より安全で楽な姿勢・動作を可能にするため技術「ボディメカニクス」として、看護の現場で如何に応用されているかを学ぶ。また、「圧力」に関する基本的な法則を学び、点滴や血圧測定について物理的な考察を行う。

学習目標：

（物理学分野）

1. 単位を付けて正しく計算ができる。
2. 静止摩擦力、動摩擦力について説明できる
3. 静止し続けるための条件を説明できる
4. 体の中のあるテコについて説明できる
5. 安定であるための条件を説明できる
6. 衝撃を和らげるための工夫を説明できる
7. ボディメカニクスについて概説できる
8. 体位変換の方法を力学的な視点から説明できる
9. 圧力に関するいくつかの単位を使い分けることができる。
10. 呼吸において、気体の法則との関係について説明できる。
11. 重力式ドレナージについて説明できる。
12. 静圧（側圧）、動圧と高低差による圧力の関係について説明できる。
13. 点滴において、適切な薬液の高さについて物理的に説明できる。
14. 血圧測定の原理や注意事項に関して物理的な観点から説明できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	-	修得の機会がない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	-	修得の機会がない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	-	修得の機会がない

		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	—	修得の機会がない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することがで		

			きる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		

5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					

<p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
<p>看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。</p>					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：

平田雅子著 「完全版 ベッドサイドを科学する — 看護にいかす物理学 —」 Gakken

参考書：

佐藤和良（著） 「看護学のための物理学」 医学書院

平田雅子（著） JJN スペシャル No.64 「臨床看護のなるほど！サイエンス」 医学書院

成績評価方法：出席、筆記試験などの方法により総合的に判定する。

その他（メッセージ等）：

看護において、物理学の考え方はいろいろな場面で応用されています。「看護師・患者ともに負担を軽減する看護動作はどうしたらよいのか」など、知識ではなく、自ら考え柔軟な対応のできるような「知恵」を授業の中に見出していただければと思います。

また、わからないことがあればいつでも質問に来てください。

なお、物理学分野の試験は12月9日に予定している。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

第16回		
第17回		
第18回		
第19回		
第20回		
第21回		
第22回		
第23回		
第24回	単位、質量と重さ	国際単位系 (SI)、質量と重さ、重さの単位、力の単位、エネルギーの単位
第25回	ニュートンの運動の法則	慣性の法則、運動方程式、作用反作用の法則
第26回	摩擦力	静止摩擦力、動摩擦力、日常の摩擦力
第27回	仕事とエネルギー	仕事、運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギー
第28回	運動量と衝撃	運動量、撃力、力積、衝撃を和らげるためには
第29回	トルク	トルク、静止し続けるための条件、担架を支える力
第30回	テコの原理、体の中のテコ	いろいろなテコ、僧帽筋、上腕二頭筋、腓腹筋
第31回	力学的安定性	重心、重心線、安定性
第32回	倒れないために	支持基底面、安定であるための条件
第33回	ボディメカニクス、圧力とは	ボディメカニクス、体位変換
第34回	圧力、サイフォンの原理	トリチェリの実験、圧力のいろいろな単位、1気圧、胃の洗浄
第35回	呼吸の物理、ドレナージ	平圧、陽圧、陰圧、胸腔内圧、重力式胸腔ドレナージ
第36回	流れの物理、点滴の物理	ベルヌーイの定理、静脈圧と適切な高さ

第37回	血圧測定 of 物理	血圧測定
第38回		
第39回		
第40回		
第41回		
第42回		
第43回		
第44回		
第45回		

区分名：

科目名（英語名称含む）：自然科学（化学）（Natural Science (Chemistry)）

教員名：谷口 暢一

開講年次：1年次，学 期：2020年度 後期，必修／選択：必修

授業形態：講義，単位数：○単位，時間数：8時間

概要：医療行為を行う上で、医薬品における化学物質の性質を理解するために最低限の知識を習得する。内容は、原子の構造、結合、酸と塩基、立体化学、有機化合物の反応性、環境化学について講義を行う。

学習目標：化学物質の性質（原子の構造と結合、酸と塩基、立体化学、有機化合物の反応性、環境化学）に関して、簡単に説明できるようにする。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	習得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	—	習得の機会がない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践でき		

			る。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	習得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊か	①	社会の理解を深める科目	—	習得の機会

	な看護専門 職者	② 人間の理解を深める科目		がない
		③ 人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④ 看護の基本となる科目		
		⑤ 看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに 対応する実践 能力を備え た看護専門 職者	① 看護実践の応用となる科目	—	習得の機会 がない
		② 看護の実践		
		③ 看護を統合する科目		
5. 看護の実践				
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護 を実践することができる。				
1)	人々のニー ズに基づい た看護の実 践	① 人々の健康レベルを、成長発達や日常生活 を取り巻く環境の観点で捉えることがで きる。	—	習得の機会 がない
		② 人々が活用できる地域の社会資源、保健・ 医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に ついて説明できる。		
		③ 人々の健康に関するニーズを明らかにす るために、必要な情報を収集し、アッセ メントすることができる。		
		④ 健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計 画することができる。		
		⑤ 安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健 康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥ 看護の対象となる人々、保健医療福祉等の		

			専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	習得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	習得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		

7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しない

参考書：J. McMURRY(著)、伊東、児玉(訳)「マクマリー有機化学概説」東京化学同人

Anthony T. Tu(著)「中毒学概論」じほう

成績評価方法：試験、レポート等、総合的に判断する。

その他（メッセージ等）：

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	原子の構造	原子、軌道
第2回	原子の結合	結合様式（共有結合、イオン結合）
第3回	酸と塩基	酸と塩基の定義
第4回	立体化学	有機分子の立体構造
第5回	有機化合物の反応 I	置換反応
第6回	有機化合物の反応 II	付加反応
第7回	環境化学	環境ホルモン等
第8回	まとめ	試験

区分名： 感性を高める

科目名（英語名称含む）：美術（art）

教員名：渡邊 晃一

開講年次：1年次，学期：2020年度 後期 ，必修／選択：選択

授業形態：講義，単位数：1単位 ，時間数：15時間

概要：本講義は、美術と医学との関連を提案していきます。芸術療法やホスピタル・アート・マネージメントとも重ねながら、主に美術作品を実制作する中で、世界の見方を広げ、精神的な喜びと表現の豊かさを伝えていきたいと思えます。

- 学習目標：1) 授業内容に知的関心をもって、意欲的に取り組むことができる。
- 2) 自らの発想の能力を高め、計画的に創意工夫することができる。
- 3) 美的感性を養い、今日の芸術文化を理解することができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	身体と生命のもつ主観と客観の関係を考えることができる。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		の要件である
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	アート作品の個人情報の扱いを遵守する
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。

1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		

4. 知識とその応用

看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性	①	感性を高める科目	◎	看護の場に

	と倫理観をもつ看護専門職者	② 倫理性を高める科目		知識を応用できることが単位認定の要件である
		③ 論理的思考能力を高める科目		
		④ 表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	① 社会の理解を深める科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		② 人間の理解を深める科目		
		③ 人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④ 看護の基本となる科目		
		⑤ 看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	① 看護実践の応用となる科目	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		② 看護の実践		
		③ 看護を統合する科目		
5. 看護の実践				
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。				
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	① 人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		② 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③ 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメ		

			ントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	◎	実践できることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとす	△	修得の機会があるが、

			る各種連携の実際を理解し、説明できる。		単位認定に 関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：テキストは使用せず、プリントを配布する。

万華鏡などの材料費(500円程度)が必要になります。

参考書：養老孟司、布施英利「解剖の時間」哲学書房、1987年

三木成夫「生命形態学序説」うぶすな書院、1989年

谷川渥監修、渡邊晃一他編著「絵画の教科書」日本文教出版、2001年

成績評価方法：・参加態度、成果点：4点満点x15回=60点

・課題作品による成果点：15点満点x2回=30点

・レポート：10点

その他（メッセージ等）：看護と関連する美術、芸術、アートについて幅広く学びます。

絵画を描くのが苦手だと思っている方々の受講も歓迎します。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1回	美術、芸術とは？	「美」と「藝」
第2回	アートと自然／文化と文明	本当の「空」
第3回	季節のカード①	「型」と「形」
第4回	季節のカード②	「樹」と「結晶」
第5回	季節のカード③	「色」の記憶
第6回	鑑賞／脳と心	視覚像と知覚
第7回	モダンテクニック①	「象」の像
第8回	モダンテクニック②	生命形態の「枝分かかれ」
第9回	モダンテクニック③	根源形象の「螺旋」
第10回	鑑賞／身体と文化	表象文化
第11回	万華鏡①	重い「光」
第12回	万華鏡②	触れる「虚像」
第13回	万華鏡③	抽象の「華」
第14回	鑑賞／芸術療法について①	ホスピタル・アート・マネージメント
第15回	鑑賞／芸術療法について②	アルス・メディカ

区分名： 感性を高める

科目名（英語名称含む）： 体育1 （Physical Education 1）

教員名：小川 宏

開講年次：1年次，学 期：2020年度 後期 ， 必修／選択：選択

授業形態：演習 ， 単位数：1単位 ， 時間数：15時間（90分×10回）

概要：身体組成測定、運動時の心拍数測定を行い、演習をとおして理解する。また、各スポーツ種目を2週ずつ行う。

学習目標：1) 各種測定結果をもとに、自分の体の状態について理解を深める。

2) 各種スポーツに積極的に取り組むことができる。

3) 仲間とのコミュニケーションを積極的に図ることができる。

4) 運動の楽しさや意義について理解を深める。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	同上
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		

	ン	③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		認定の要件である
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	同上
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		

2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	-	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		

		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	-	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明でき		

			る。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	-	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： 指定しない

参考書： 必要に応じ授業の中で提示する

成績評価方法： 授業への参加姿勢、態度により評価する

その他（メッセージ等）： 授業に積極的に参加し、実際に体を動かしながら運動と健康について理解を深めていくことが大切です。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	心拍数&身体組成測定演習	運動中の心拍数、身体組成を測定し、その後教室へ移動して講義を行う
第2回	テニス（1）	基本練習、簡易ゲーム
第3回	テニス（2）	応用練習、簡易ゲーム
第4回	バスケットボール	基本練習、3vs3,5vs5 のゲーム
第5回	ソフトバレーボール（1）	基本練習、ゲーム
第6回	ソフトバレーボール（2）	応用練習、ゲーム
第7回	バドミントン（1）	基本練習、ゲーム
第8回	バドミントン（2）	応用練習、ゲーム
第9回	卓球（1）	基本練習、ゲーム

第 10 回	卓球 (2)	応用練習、ゲーム
--------	--------	----------

区分名：社会の理解を深める

科目名（英語名称含む）：社会と医療・福祉・保健

(Society, health care, welfare and health)

教員名：柴田邦昭

開講年次：1年次，学期：2020年度 後期，必修/選択：必修

授業形態：講義演習実習，単位数：2単位，時間数：30時間

概要：社会福祉の基本は、国民一人一人が抱える具体的な生活課題に対し、国民の生活と健康を保障するための支援と指示にあたることである。本講では社会福祉の原理・原則・体制などの社会福祉原論と様々な福祉制度・システムを学びます。

学習目標：1) 社会福祉の理念と基礎知識や制度的知識を習得する。

2) 社会福祉を推進させるための資源や様々な連携を理解する。

3) 生活者の福祉問題の現状と課題を理解する。

4) 社会福祉に関する事項を的確に整理することができ、自分なりの見解を記述

述

することができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣	—	修得の機会が

	装・品位/ 礼儀		い、態度をとることができる。		ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と 自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	—	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。

1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	—	修得の機会がない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		

4. 知識とその応用

看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性	①	感性を高める科目	△	修得の機会

	と倫理観をもつ看護専門職者	② 倫理性を高める科目		があるが、単位認定に関係ない
		③ 論理的思考能力を高める科目		
		④ 表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	① 社会の理解を深める科目	○	模擬的な場 に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		② 人間の理解を深める科目		
		③ 人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④ 看護の基本となる科目		
		⑤ 看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	① 看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		② 看護の実践		
		③ 看護を統合する科目		
5. 看護の実践				
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。				
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	① 人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		② 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③ 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメ		

			ントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必	△	修得の機会

	から学ぶ		① 要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。 ② 放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。 ③ 放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		があるが、 単位認定に 関係ない
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	-	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 健康と社会保障制度 3

「社会保障・社会福祉」2020年度版

参考書： 適時指示する

成績評価方法： 試験により評価します。

その他（メッセージ等）：

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	社会福祉の意味と概念	地域社会での福祉課題と生存権、幸福追求権等
第2回	現代の社会福祉の動向と課題	少子高齢化・他問題家族・生活困窮 等 権利擁護、サービスの質の向上

第3回	介護保険	介護保険制度の背景・概要・課題と展望
第4回	所得保障1	所得保障の仕組み
第5回	所得保障2	年金制度
第6回	所得保障3	社会手当・労働保険制度
第7回	公的扶助1	貧困・低所得世帯問題と公的扶助
第8回	公的扶助2	生活保護制度の仕組み
第9回	公的扶助3	生活保護制度の実態
第10回	公的扶助4	低所得世帯者の対策
第11回	公的扶助5	生活福祉資金制度について
第12回	公的扶助6	生活困窮者対策等近年の動向
第13回	社会福祉の分野とサービス1	高齢者福祉1
第14回	社会福祉の分野とサービス1	高齢者福祉2
第15回	社会福祉の分野とサービス1	高齢者福祉3
第16回	社会福祉の分野とサービス2	障害者福祉1
第17回	社会福祉の分野とサービス2	障害者福祉2
第18回	社会福祉の分野とサービス2	障害者福祉3
第19回	社会福祉の分野とサービス3	児童家庭福祉1
第20回	社会福祉の分野とサービス3	児童家庭福祉2
第21回	社会福祉の分野とサービス3	児童家庭福祉3
第22回	社会福祉実践と医療・看護1	社会福祉援助とは
第23回	社会福祉実践と医療・看護1	個別・集団援助技術
第24回	社会福祉実践と医療・看護1	関連援助技術と検討課題
第25回	社会福祉実践と医療・看護2	連携の重要性
第26回	社会福祉実践と医療・看護2	福祉実践と医療・看護の連携の実態
第27回	社会福祉実践と医療・看護2	具体的な場面での連携
第28回	社会福祉の歴史1	社会福祉史の枠組み
第29回	社会福祉の歴史2	全近代・近代の諸相
第30回	後期のまとめ	

区分名： 人体の身体機能と病態を理解する

科目名（英語名称含む）：人体解剖生理学Ⅱ（Human anatomy & physiologyⅡ）

教員名： 太田昌一郎 他医学部教員数名

開講年次：1年次，学 期：2020年度 後期 ， 必修

授業形態：講義演習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：30時間

概要：正常な人体の構造と機能を理解する。

学習目標：

- ① 腎臓の構造と機能を理解する。
- ② 下部尿路系の構造と機能を理解する。
- ③ 神経系の構造と機能を理解する。
- ④ 内分泌系の構造と機能を理解する。
- ⑤ 感覚器系の構造と機能を理解する。
- ⑥ 生殖器系の構造と機能を理解する。
- ⑦ 人体発生の知識を理解する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	—	修得の機会がない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	—	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	—	修得の機会がない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践でき		

			る。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊か	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場

	な看護専門 職者	② 人間の理解を深める科目		に知識を応 用できるこ とが単位認 定の要件で ある
		③ 人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④ 看護の基本となる科目		
		⑤ 看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対 応する実践 能力を備え た看護専門 職者	① 看護実践の応用となる科目	—	修得の機会 がない
		② 看護の実践		
		③ 看護を統合する科目		
5. 看護の実践				
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護 を実践することができる。				
1)	人々のニー ズに基づい た看護の実 践	① 人々の健康レベルを、成長発達や日常生活 を取り巻く環境の観点で捉えることがで きる。	—	修得の機会 がない
		② 人々が活用できる地域の社会資源、保健・ 医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に ついて説明できる。		
		③ 人々の健康に関するニーズを明らかにす るために、必要な情報を収集し、アッセ メントすることができる。		
		④ 健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計 画することができる。		
		⑤ 安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健 康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥ 看護の対象となる人々、保健医療福祉等の		

			専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		

7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：特に指定しない。

参考書：講義中に随時提示する。

成績評価方法：試験期間における筆記試験、随時実施するレポートを等分評価する。

その他（メッセージ等）：講義の進め方は内容が前後することがある。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	尿と排泄 1	腎臓、腎機能
第2回	尿と排泄 2	尿管、膀胱、尿道、排尿機構
第3回	神経組織	神経細胞、シナプス、ニューロン、神経伝導
第4回	中枢神経	終脳、間脳、中脳、小脳、橋、延髄、脊髄
第5回	末梢神経	脳神経、脊髄神経、腕神経叢、腰仙骨神経叢
第6回	恒常性調節 1	自律神経、交感神経系、副交感神経系
第7回	恒常性調節 2	内分泌系、視床下部-下垂体-副腎系
第8回	恒常性調節 3	代謝調節、体温
第9回	一般体性感覚	触覚、圧覚、温覚、冷覚、痛覚
第10回	特殊感覚	視覚、聴覚
第11回	生殖	生殖細胞、減数分裂、メンデルの法則
第12回	男性生殖器	精巣、精巣輸出管、精巣上体管、精管、射精管
第13回	女性生殖器	卵巣、卵管、子宮、膣
第14回	胎盤	絨毛、母体-血液間腔、胎児循環

第15回	人体発生	月経周期、受精、着床、妊娠、胎児発生
------	------	--------------------

区分名：看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）： 看護学の基本Ⅱ （ Nursing Fundamentals Ⅱ ）

教員名： 川島理恵

開講年次：1年次，学 期：2020年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：演習 単位数：2単位 ， 時間数：30時間（120分×15回）

概要：看護は、対象が健康な生活を送ることができるように支援する役割を持ちます。対象は、健康状態や日常生活の状況、現在に至るまでのプロセスがそれぞれ異なります。同じ病気を抱えていても、必要とする看護も同じではありません。対象が求める看護を実践するためには、看護過程に沿って考えることは重要となります。看護過程の基盤は、私たちが日常的に用いる問題解決の思考過程であり、多くの看護実践現場が用いている方法です。この科目を通して、看護を実践するための基本を学習します。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

1. 看護過程の基盤となる問題解決過程の考え方を理解する。
2. 看護過程の目的や構成要素を理解する。
3. 看護過程の展開が、対象との相互行為を通して行われることを理解する。
4. 紙上の事例を用いて、情報の整理、アセスメント、看護上の問題の抽出、看護目標の設定、看護計画の立案を行い、看護過程の基本を習得する。
5. 演習を通して、学生個々が自身の考え方の傾向に気づく。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル	
1. プロフェッショナル				
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。				
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、そ	● 実践の基盤と

			れに基づき、考え、行動できる。		なる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	態度、習慣、価値観を模倣的に示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣スキルを示せることが単位認定の
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評		

			<p>価値を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。</p>		要件である
		④	<p>自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。</p>		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
<p>自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。</p>					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	<p>人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。</p>	○	<p>基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である</p>
		②	<p>人々の社会的背景を理解して尊重することができる。</p>		
		③	<p>看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。</p>		
		④	<p>望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。</p>		
2)	チームでのコミュニケーション	①	<p>人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。</p>	○	<p>基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である</p>
		②	<p>チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。</p>		
		③	<p>チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。</p>		
		④	<p>人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する</p>		

			重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場で実践できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場で実践できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					

1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	○	模擬的な場で実践できることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	○	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：特にありません。

参考書：① ロザリンダ・アルファロールフィーヴァ著；本郷久美子監訳：基本から学ぶ看護過程と看護診断（第7版）,医学書院, 2012.

② 松木光子：JIN ブックス ケーススタディ看護過程—根拠に基づく看護診断から評

価まで一(第2版), 医学書院, 2002.

- ③ 任和子: 看護記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド(プチナース BOOKS), 照林社, 2015.

その他授業内で紹介します。

成績評価方法: 筆記試験、グループワークなど授業における学習状況、授業の出席状況を総合して評価します。

その他(メッセージ等): 看護を提供するとはどのような事でしょうか。看護過程は、看護を行うための道具と言われます。看護過程を理解していても、「看護とは」が、わからなければ、対象に沿った看護を提供することができません。この授業を通して、看護過程の基本を学びながら、皆さん自身の看護観を少しずつ育ててください。

授業内容(学習項目)

回	項目	内容(キーワード等)
第1・2回	オリエンテーション、 看護過程の概要	看護過程を学ぶ理由 看護過程と問題解決過程 看護過程の構成要素
第3・4回	問題解決過程	日常生活における問題解決過程
第5・6回	情報を集める	看護の対象に関する情報とは 対象の情報を得るために必要なこと ケアリング
第7・8回	情報の整理	情報の整理
第9・10回	アセスメント	アセスメントとは、 アセスメント能力とは、ニードとは
第11・12回	アセスメント	情報の分析・解釈 栄養の側面から
第13・14回	アセスメント	情報の分析・解釈 排泄の側面から
第15・16回	アセスメント	情報の分析・解釈 清潔の側面から
第17・18回	中間のまとめ	グループ発表 アセスメントのまとめ

第 19・20 回	看護上の問題の抽出	各項目間の関連の検討 看護上の問題の抽出、優先順位の検討
第 21・22 回	看護目標の設定	看護上の問題の見直し 看護過程における対象との相互行為 看護目標の設定、看護計画の立案
第 23・24 回	看護計画の立案	立案した看護計画の見直し O・P、T・P、E・Pの視点
第 25・26 回	実践の評価	看護計画実施後の評価 看護師が実践を振り返る事の意義
第 27・28 回	看護記録	記録の意義、看護と看護記録、SOAP 看護学実習と実習記録
第 29・30 回	まとめ	個別性を踏まえた看護とは 看護観と看護過程

区分名： 看護を統合する科目

科目名（英語名称含む）： 災害看護学 I （ **Disaster Nursing I** ）

教員名： 堀内 輝子

開講年次： 1 年次，学 期：2020 年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義演習 ， 単位数： 1 単位 ， 時間数：15 時間

概要：災害に関連する基礎的知識を理解し、災害サイクルに応じた課題とその解決のための

対処方法を学習する。看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

1. 災害の歴史、定義、種類、関連する制度、災害看護の歴史を学び災害看護の概念を理解する。
2. 災害サイクルの特徴と健康課題を学び、対処方法について考える。
3. 災害時、看護職に求められる能力について考える。
4. 福島における原子力災害の状況を学び放射線防護の意味を考える。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣	△	修得の機会は

	装・品位/ 礼儀		い、態度をとることができる。		あるが、単位 認定には関係 ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定には関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と 自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	—	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。

1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、体位認定に関係が無い
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		

4. 知識とその応用

看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性	①	感性を高める科目	—	修得の機会

	と倫理観をもつ看護専門職者	②	倫理性を高める科目		がない
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	修得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメ		

			ントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとす	●	実践の基盤となる知識

			る各種連携の実際を理解し、説明できる。		を示せることが単位認定の要件である
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：メディカ出版ナーシンググラフィカ 災害看護

参考書：諏訪清二著、高校生、災害と向き合う、岩波ジュニア新書、2011.

柳田邦男・酒井明子編著、災害看護の本質、日本看護協会出版会、2018.

成績評価方法：筆記試験（40%）、課題（30%）、出席率・GWへの貢献度（30%）で総合的に判断する

その他（メッセージ等）：日本は自然災害の多い国であり、何時災害に遭遇するかわかりません。災害は、非日常であり様々なリスクと遭遇することになります。普段から、どのような行動や判断をすれば良いのかを一緒に考えていきましょう。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	ガイダンス	・科目の概要，科目の学習内容

		<ul style="list-style-type: none"> ・災害看護学Ⅱとの関連性 ・科目の評価方法
第2回	一市民としての災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・災害の定義，災害の種類 ・日常の災害への備え ・具体的なタイムラインの作成
第3回	災害の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・災害の定義 ・災害の種類 ・災害サイクル ・災害に関連する法律
第4回	災害看護の歴史	・阪神淡路大震災から今日までの災害看護の歩み
第5回	災害サイクルの特徴と	・災害の時間的経過に伴う健康課題とその対処方法
第6回	健康課題1	
第7回	避難所での課題	・避難所の特徴と健康問題への対処について図上訓練（演習）
第8回		
第9回		
第10回	福島の特徴	・原子力災害がもたらした影響
第11回	放射線の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・放射線核種の種類と半減期 ・体外被曝と体内被曝 ・放射線防護
第12回	看護職に求められる能力	<ul style="list-style-type: none"> ・救急医療と災害医療時の看護の共通点・相違点 ・災害時に求められるスキルとは
第13回	地域防災のプレゼンテ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の居住地域のハザードマップ作成 ・タイムライン再検討
第14回	ーション	
第15回	試験	筆記試験

区分名： 看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）： 基礎看護学実習 I （ fundamental nursing clinical practicum I ）

教員名：川島理恵 木下美佐子 堀内輝子 林紋美

開講年次：2年次，学 期：2020年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：実習 ， 単位数：1単位 ， 時間数：30時間

概要:本実習は、地域で生活する高齢者の方々とかかわり、看護の対象理解について学びます。週1回ずつ4週間にわたり、デイサービスセンターやデイケアセンターにて実習を行います。5週目は学内でカンファランスを行い、意見交換を通して学びを深めます。実習を通して、対象に積極的な関心に向け、地域で生活する人々とかかわり、対象の健康状態の多様性、現在の生活やこれまでのプロセスの多様性を理解することの大切さを学んでいきます。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

- 1) 対象に積極的な関心を向ける。
- 2) 対象の健康状態の多様性を理解する。
- 3) 対象の現在の生活やこれまでのプロセスの多様性を理解する。
- 4) 看護職者としての姿勢を身につける。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル
1. プロフェッショナル			
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。			
1)	看護倫理	① 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎ 看護実践の場で看護職とし

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		での態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。

1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		

3. 人間関係の理解とコミュニケーション

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。

1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について		

			理解することができる。		の要件である
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会はない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	◎	看護の一部として実践できることが単位認定要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会はない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサー		

			ビスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に
		②	科学的思考に基づいて看護学		

		上の課題を解決することの重要性を説明できる。	関係はない
--	--	------------------------	-------

テキスト： 特になし

参考書： 今までの履修科目時に使用した書籍、資料等

成績評価方法：

当該実習総時間数の 5分の4以上出席しなければ単位認定を受けることができない。

実習評価は実習内容・実習態度・記録を統合して行う。評価配点は実習要項に記載する。

その他（メッセージ等）：

その対象に沿った看護を提供するためには、対象を広く深く理解することが大切です。そして、対象を理解するためには、積極的な関心を向けることが重要です。では、積極的な関心とはどのようなことでしょうか。

授業内容(学習項目)

1. 実習施設

- ①ユアライフディサービスセンターシニアガーデン
- ②老人デイサービスセンター はなみずき
- ③二本松病院附属介護保険老人保健施設
- ④デイサービスセンター はなひらの
- ⑤介護老人保健施設ケアフォーラムあづま
- ⑥指定通所介護事業所ディサービスはなしのぶ
- ⑦特別養護老人ホーム ひまわり苑
- ⑧北信デイサービスセンターすこやか指定通所介護事業所
- ⑨ハッピー愛ランド
- ⑩介護老人保健施設ケアタウンひまわり
- ⑪アグリホームデイサービスセンター

2. 実習期間 令和2年11月10日(火)～12月10日(木)

3. グループ編成：1 グループ 3～5 名程度とする。

4. 実習前オリエンテーション

実習の詳細は、約 1 ヶ月前の全体オリエンテーションにて説明するため、必ず出席すること。実習目的や実習場所、担当教員の他、実習の展開方法、実習記録、実習に際しての留意点などを説明する。また、集合時刻や服装など施設によって異なるため、各担当教員より施設毎の説明を受け、各自主体的に実習に臨むこと。

5. 実習期間中

詳細は、実習要項に記載するが、学生は週 1 回(火曜日または木曜日)4 週にわたり施設を訪問し、利用者の方と関わる。カンファランスは、施設および学内にて行う。学内でのカンファランスは、施設での実習日とは別に週 1 回行い、担当教員やグループメンバーと意見交換を通して、学びの整理と自己の課題を明確化する。

6. 個々のレポートを通しての学びの整理

実習と、実習後のカンファランスを踏まえながら、実習目的に沿って個々の学びを論理的に整理し、自己の課題を見出す。

7. 記録のまとめと提出

実習中は、日々の学びを指定の用紙にまとめる。他に、実習終了後に「実習を通しての学び」をまとめる。詳細は実習要項に記載する。